



「形の科学百科事典」

Encyclopedia of Science on Form

形の科学会編集，朝倉書店刊

2004.8発行

903頁，定価36,750円(税込)

ISBN4-254-10170-8C3540

私たちが，目で見て美しいと感じるのは，多くの場合，その「形」の美しさについてである。では，その「形」とは何か？と考えると答えは簡単ではない。その問いは，哲学でもあり最先端科学でもある。そういったことに気づかせてくれるのが，この「形の科学百科事典」である。この本を編集した形の科学会(Society for Science on Form, Japan)は，1985年に設立された，モノの形やパターンに興味を持つ研究者からなる学会である。

地球科学の研究では，地層，化石，鉱物などの形が，どのようにして作られたのか問題になることが多い。地表の形を取り扱う地形学では，形からどれだけ多くの情報を引き出すことができるかが勝負である(評者は常々頭を悩ませている)。また，読者の方は各種探査法によって得られる画像データのパターンや，地図上に広がる統計値の分布パターンが何を意味するのかを考えることも多いだろう。そんなときに，いままで関係がないと思っていた事象との共通の形を見つけることにより，問題が解決していくことがある。しかし，そのヒントに出会うのは，多くの場合偶然であり，よほど注意していないと見逃すことが多い。この本は，そういったヒントに出会わせてくれる本である。本を開いてみると，形に関する様々な研究分野の研究者が，研究対象としている形について1～数ページという短い分量で簡潔に解説をしている。その説明は，平易でわかりやすい。形を取り扱う学問なので，出発点が形である。そのため，知識があまりない分野に関しても，その内容についてイメージすることができ，すんなり読むことができる。

構成は，5つの章からなる。1. 生物と形，2. 物理と形，3. 天文と形，4. 数学と形，5. 工学と形。地球に



まつわるテーマについては，主に3.天文と形のなかで述べられている。

地球科学に関連する項目の題名を一部挙げると，「形の宝庫-放散虫」「チャート」「ケイソウの形」「結晶の成長と形」「粒子なだれの形」「風紋と砂丘のダイナミクス」「南極氷床の形」「断層集団のフラクタル」「岩石の組織と構造」「鉱物をつくる形」「隕石の組織から成因を探る」「流域のかたち」などである。様々な地球上あるいは地下の特徴的な形の持つおもしろさと，その形が作り出される理屈が語られている。こういった専門に近い項目について読むのも良いが，この本のおもしろいところは，たとえば「脳波のパターン」「昆虫の輝く色彩の秘密」「日本の屋根の形」「ワインの涙と松ヤニの船」「金平糖の角はどうしてできるのか」「あやとりの指運動の基本ルール」「新幹線車両の先頭部形状」「ミウラ折りの魅力」などの様々な興味深いテーマについて，同じ本のなかで読むことができ，そして，思いがけない発見があることである。それぞれの項目には，関連する文献が挙げられている。また，随所に，記名式の読書案内のコラムがあり，簡単な紹介文がついている。これらを手がかりにより深く学ぶことも可能である。

一通り読んでみて，それでは「形」とはなんだ？と改めて考えみると，読む前に比べ，一層分からなくなっているかもしれない。しかし，それは，形に対する好奇心が以前よりも増している証拠だろう。

(地質標本館 目代邦康)